

日曜大工でマイホーム

仙台の店舗兼住宅は店が南向きで日当たり良いが、住宅部分は隣のビル陰になり、部屋の中は暗く、一日中電気を灯けていなければならぬ。

二階は設計事務所に貸してあり、一階の店舗は調剤薬局に貸してあった。店舗を貸す時の契約で、三年後から一階住宅部分の三分の二を貸すことになっている。

残りの部屋だけでは生活は覚束ない。それに日当たり悪い。一年過ぎた頃から、生まれ故郷で二人して余生を送ろうと決め土地探しが始まった。

蔵王にはリングと栗園があり、毎週一・二度通って居た。途中小村崎部落を通るのだが、道路沿いに人が住んでいないと思われる平屋の家がある。私は気が付かなかったが、妻が何時通っても誰もいないと言う。

義弟の常世ちゃんに聞いたたら、矢附部落に居る同級生の所有だそうだ。子供の為に買ったが、田舎はいやだと言つて、仙台に住んでいるから、不要になったそうだ。

不動産屋を介入せずに交渉、買ったときの値段は二百七十万円だからその金額でよいと言う。実際はどうだか知らないが不動産屋の仲介料や消費税が不要だから契約し、支払い、代書人に登記を依頼し正式に取得した。

その土地には、西と北側に杉と樺が三十本ほど植えてあり、道路より一・五米位低い。建物も古く、人が住める状態ではない。



杉の木は伐り倒し、ゆんぼをリースして、矢附の義弟に建物を解体して貰った。杉の木は近くの農家が風呂焚き用に全部持って行って呉れた。隣の畑の持ち主に、畑に日が良く当たり、杉の葉も落ちず、よい人を買って貰ったと感謝された。

妻が、道路より低い土地は不便で縁起が悪いと言うので、私も納得し、義兄と私で周りをコンクリートブロックで嵩上げ、ダンブ業者に約六十台の土砂を運んで貰い、宅地は完成した。

基礎は私の知り合いの業者に頼み、建物は私の生家に入った大工さんに、棟上げまで六十万円で請け負って貰った。昭和六十四年九月十七日、棟上げを在郷の兄弟、知人に手伝って貰い行った。なぜこんな風にしたか、私達は仙台の店は豊んで収入が少なく、又自分で造作して見たくなったからだ。

建坪は百四十三平方米、間取りは洋一のマンションを参考に私が出したが、洋一の勧めで、居間を二十四・五畳の洋室に変更した。棟上げ前までに三坪の物置を基礎から墨付け、刻み、建前、造作、屋根葺き迄一人で完成してある。

屋根は義弟に貰って貰い、サツシを入れ、周りのサイディングを張り、玄関ドアを取り付け、中二階に部屋を作り、寝泊りしていた物置から引越した。知らない人々は「あんな物置に寝泊りして」と笑い、何処の大工さんだろうと噂になって居たそうだ。妻は防腐



剤等塗って呉れ、いろいろ手伝って貰った。

時々電気の仕事が舞い込むので、造作は遅々として進まない。流し台等台所用品一式、浴槽はナシヨナルの人造大理石（洋式）石油ボイラー等、殆んど卸しで購入し取り付けを行った。和室の八畳と押入れ等難しい所は、大工さんをお願いした。造作に十人（十万円）頼んだだけだった。

浄化槽も届け書類つきで安く購入。総ての書類書きと届けを一人で行い、工事も業者がやるよりも良い材料を多く使い、出来上がり竣工届けを出し合格した。

豊、タイル、ペンキの一部は業者に頼み、重い物の取り付けの時は息子たちが手伝い来た。棟上げから約一年、よく頑張った。十月になって在郷の兄弟と大工さんを呼び、新宅祝いを行った。

その時大工さんに同等の建物と比べて七百万円位安く出来たと話された。私と妻で七百万円働いたことになる。そして仙台より蔵王に転入届を出し、蔵王町民になった。



平成十四年十月十四日